

才担当か運んたものや生産者が届けたサンプル

トップの挑戦

無名ワイン

モトック



ひらおか・あつし 1972年(昭和47年)関西学院大卒。レナウンで仕入れや商品企画を担当後、78年に入社。大阪府出身、62歳。



輸入商社では異例の一般消費者向けの試飲会も開いている。ただ、自らのワインを買い立てできる、未知の銘柄をば、個人的な手や、代わりで新たな売り場はつく商品を生み出した老舗に、シビアになる日本人の舌と財布。ビジネスのさらなる深みを求めて、自らがワイナリーの足を運ぶ。平岡の奔走は続きそう。敬称略 (丸山修一)

太陽光発電・蓄電池付き倉庫

グリーンテック3月販売

グリーンテック(京都)は3月、川勝一司社長は3月から倉庫型の太陽光発電施設を販売する。緊急時の電力供給を想定したもので、約300坪の発電ができる太陽光発電パネルを6枚組み込んだ。通常時は天井面に付いている2枚が発電し、内蔵してある鉛蓄電池に電気をためる。緊急時には6枚すべてを展開し、発電量を増やす。蓄電池には最大でノートパソコンが連続30時間以上使える電力をためることができ、内部は緊急時に必要な食料や水、消火器などを入れるスペースとして使える。価格は1棟あたり298万円。月5万円でのリースもできる。災害が起ったときは通常時にためた電力を使って、スイッチ操作で天井を傾け、天井の下に隠れている4枚のパネルを倉庫の前面に展開する。倉庫の大きさは幅2・5m、奥行2・7m、高さ2・7m。地方自治体や学校の校庭や公共施設などに設置する需要を見込んでいる。災害が起ったときは通常時にためた電力を使って、スイッチ操作で天井を傾け、天井の下に隠れている4枚のパネルを倉庫の前面に展開する。倉庫の大きさは幅2・5m、奥行2・7m、高さ2・7m。地方自治体や学校の校庭や公共施設などに設置する需要を見込んでいる。

カラー絵柄付き開発

QRコード 誘導効果高める

【徳島】マイクローンテレクス(徳島県小松島市、齊藤孝弘社長)は、誘導するきっかけとして「コード」をカラーの絵柄にする技術を開発した。同社は、白黒のモザイク模様よりデザイン性が高く、誘導の効果が上がるとみている。新しいコードは各種のデータが組み込まれている本来のモノクロのバー



コードの上にカラー化した絵柄を載せる多層化の技術を活用した。好みの色を使用することができ、同社は関連する特許を日米両国で取得済みという。QRコードをカラー化する取り組みは始まっているが、白黒よりデータを読み取る際の精度が落ちる恐れがあるほか、多層化するとデータの読み取りを阻害する難点があった。

学生に昼食相手紹介

シンクランチ、4月から

ソーシャルメディアを使ったサービスを提供するシンクランチ(東京・港、福山誠社長)は4月から大学生を対象にしたランチ相手の紹介サービスを開始する。フェイスブックに登録した2人組で申し込むと、スマートフォンに午前中にランチ相手の提案が届く仕組み。情報料などはかからない。シンクランチは「ソーシャルランチ」の名称で東京、大阪の社会人向けのサービスを昨年10月から提供している。

川崎発

キラ星

壁を大きくはがさずに補修できる。アースク

短時間工法

【概要】川崎市幸区新川崎7の左藤一芳氏。600万円。2011年8月期。3人。このボード壁の補強と薄型テレビなどの設置



以上の大型で2006年、09年に特許をとった壁掛け施工を請け負う。7万円前後取得し、「ジャストアップ」の名称で取扱店の募集から研修生を受け入れ、同社が実現を始めた。10年夏には川崎市の地域協力店になっても市産業振興財団が主催する。2012年8月期は前期に約350件だった。

新興企業 NAVI



食品包装材などの「産業資材」、液

業が営農を始めるまでの準備期間が1年8カ月に及ぶことが、日本政策金融公庫が26日にまとめた調査でわかった。回答企業の44%がその間の取り組みに「農地確保・土壌改良」をあげる。条件にあった農地をなかなか見つけられず、売り上げ